

みんなが健康で安心して暮らせる社会へ

ソーシャルウェルネスの実現

静岡大学は「自由啓発・未来創成」の理念のもと、静岡県に立地する総合大学としてさらなる地域社会の期待に応えるため、「静岡大学未来創成ビジョン」を定め、県全域との共創により「オール静大」で取り組んでいます。

「静岡大学未来創成ビジョン」に掲げる9つの目標のうち、「G1: ソーシャルウェルネスの実現」について、推進担当の副学長にお話を伺いました！

ソーシャルウェルネスの実現って？

一人一人が体も心も、そして社会的にも健康で安心して暮らせる社会を目指すということです。それぞれがいきいきと暮らせることが、社会の安定的な基盤となり、次の成長にもつながっていく、今、とても大事な目標です。



副学長 (DE&I推進担当)
グローバル共創科学部
吉川 真理 教授

副学長 (リスク管理担当)
人文社会科学部
高倉 博樹 教授

異分野の協力が課題解決につながる

例えば、スマートウォッチの健康管理の機能は、生体センシング、ウェアラブルデバイスの技術や、スポーツや運動生理学の観点、個人情報情報を安全に取り扱うための法的知識など数多くの専門分野で成り立っています。このように複雑な課題を解決することや、社会を変えるような新しい段階には、異分野で協力することが重要です。

静岡大学だからこそできる挑戦

本学独自の「プロジェクト研究所」制度を活用し、分野を超えた研究者がチームで研究を進めています。例えば、「ピアノとウェルビーイング研究所」では、音楽の効果を科学的に考えるレクチャーコンサートを開催したほか、「デジタル社会における法的対応研究所」では、介護分野でAIなどの最先端技術の活用を進める上での法的支援を研究しています。今後も、異分野で協力しやすい環境づくりを進めていきます。

「静岡大学未来創成ビジョン」
推進の動きを発信中！



研究者交流会を開催

6月4日に浜松キャンパスで「G1: ソーシャルウェルネスの実現」の推進に向けて研究者交流会を開催し、浜松キャンパスから15名、静岡キャンパスから31名の教員が参加しました。研究者間による情報共有、アイデアの交換等を通じて、新たな異分野融合研究に繋げることを目的としています。

異分野を専門としながらも関連性が高いテーマに取り組む研究者間で行われたグループセッション。「医療・介護を支えるXR・AIスマートケア基盤」「文化・芸術・学習による孤立予防と地域参加」など多様なテーマが設定されました。「新しい価値観を取り入れられて有意義だった」との感想がありました。



静岡大学未来創成ビジョン

目的と9つの目標

県全域との共創により
「オール静大」で
ポストSDGsを見据えた
地域課題解決に取り組み
世界に展開

G1 ソーシャルウェルネスの
実現

G2 レジリエント社会の
構築

G3 イノベーションの
創出

G4 スマートコミュニティの
実現

G5 グリーン社会の
構築

G6 海洋研究の
推進

G7 高等教育機関等との
一体的連携

G9 県全域への
教育研究拠点の展開

G8 生きる力を支える
教養教育改革



研究者の研究背景によって着眼点が異なり、AIやWell-beingの解釈の多様さを感じました。他学部の研究者とも継続的に交流していきたいです。

情報学部 石川 翔吾 准教授

現在の研究テーマは、AIやXR等の情報技術を活用した障害当事者と支援者への支援技術開発など

各々が感じている課題に対する技術的なギャップを、異分野の研究者との協力で解決することができ、より大きい課題に対応できるように感じました。

工学部 中村 伊吹 助教

現在の研究テーマは、生体・映像情報による状態推定とバイオフィードバックシステムの開発など

学部や分野を超えた交流を通じて、大学全体としての一体感を醸成する良い機会になったと思います。将来的に連携につながる可能性を感じました。

農学部 鮫島 玲子 准教授

現在の研究テーマは、持続可能型農業に向けた土壌微生物の活用など

様々な分野の研究がソーシャルウェルネスに関連しており、介護などの分野でもAIやDXが広く活用されつつある現状を把握する必要性を感じました。

未来社会デザイン機構 内山 智尋 准教授

現在の研究テーマは、地域福祉の視点を取り入れた「地域づくり」の実践など

